

令和6年度 第3回桜島支所管内の振興に係る地域懇話会概要

日 時	令和7年2月26日 18時00分～19時30分
場 所	桜島支所2階大会議室
出 席 者	地域懇話会委員、地域活性化アドバイザー、事務局、さくらじま地域おこし協力隊
会 次 第	○協議事項 ① 令和6年度事業報告について ② 令和7年度事業計画について ③ 地域と共に創るまちづくりプラン改訂報告
主な意見等	① 令和6年度事業報告について ・地域の飲食店等の連携による魅力発信 【各委員からの意見】 ○ インフルエンサーの情報発信は、桜島のお店目的で訪れる方も増えて、店としてもありがたいし、うれしい。 ○ さくら市は、出店者が体力があったり、余裕のあるタイミングでの参加に限定されてしまうのが課題。 ○ マルシェに参加する事業者だけでなく、他の事業者も参加して、この取り組みに関わる人が増えていくとよい。 ○ 島内の店舗も増えてきて、いい感じに連携でき、自走に向かって進んでいると感じるが、市の支援がないとまだ完全な自走は難しい。 ○ マルシェ等のスケジュール管理やとりまとめをする人材がいなのが課題。 ・桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援 【各委員からの意見】 ○ iko てらすは事業計画の利用者数より多くの方の利用があった。 ○ お試し移住や桜島で何かしたいという方の利用がないことが課題。 ○ iko カフェでは、デジタルレクリエーションを行い、好評であった。普段顔を見ない住民の参加もあり、興味を持って参加してもらうことは大事だと思う。 ○ みんなが集まりやすいレイアウトで、ワイワイ話をできる環境がすごくよい。 ・デジタル化による生活利便性向上 【各委員からの意見】 ○ 全く知らないところからスタートしているので、参加者が上手になっていくのがよくわかる。 ○ デジタルサポーターも教えながら自身も勉強になるので、一緒にやっていくのが楽しい。 ○ 参加者が本当に身になるにはまだちょっと時間がかかるかなと感じる。 ○ スマホ教室がきっかけで年配の人と若い人の繋がりができてよい。 ○ 参加者同士の繋がりが強くなっている感じがよい。 ○ スマホ教室でラインを習得していくので、イベント情報を流せるような環境になれば他の事業とも連携できる。 ②令和7年度事業計画について ・地域資源を活用した新しいコンテンツの創出 【各委員からの意見】 ○ 最近は観光客も多く、旬彩館では製品作りに追われている状況。 ○ トマトなどいろんな農産物を売れる商品にしていくことは、やる価値はあるのかなと思う。 ○ 椿に関しては、売り方であったり、誰がするかなどきちんと整理をすればなんとかなると思うが、プロの目から見れば手を出しにくい。

- 農業を取り巻く環境が厳しくなっていることから、ミカン狩りなど農業体験と観光を組み合わせることで、農家の収入にもなれば面白いことができると思う。
- 桜島の今後を考えれば、事業廃止による資源や機材の再利用を考えることは必要で、資源を把握して後継者を育てるといった取り組みも大事だと思う。

【地域活性化アドバイザー（総括）】

- 今はどちらかというと支所が前面に立っていて、そのお手伝いを地域の方がやっているみたいな形にはなっているが、本来は逆で、地域の方がやってることを支所が側面支援するというのが正しいあるべき姿だと思う。
- 現在行っていることが次に繋がるようになりつつあってよい。最終的には地域の人たちでやっていくことになるが、支所がかゆいところに手が届くような側面支援を行い、ぜひ実現していただきたい。
- 3つの事業とも最終的に思い描いたような流れに徐々になりつつあり、このままもうひとつ進めばいい形になると思う。桜島の人口が減っていくのは確実であるため、観光という部分を連携させて取り組んでいていただきたい。